



学校だより

～ ひびきあう心 かがやく笑顔 ふれあいの丘 斎藤分 ～



令和8年8月27日 9月号

横浜市立斎藤分小学校 校長 小笠原 洋平

～見えない力の成長～

校長 小笠原 洋平

記録的な猛暑に加え、豪雨や地震による災害が発生し、改めて自然の厳しさを感じる夏となりました。被害に遭われた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

さて、40日に及ぶ夏休みを、お子さんたちはどのように過ごされたでしょうか。規則正しい生活を送った子、つい夜更かしをしてしまった子、宿題を計画的に進められた子、最後に集中して取り組んだ子…。学校生活とは異なる環境の中で、一人ひとりがそれぞれの夏を過ごしたことと思います。そして保護者の皆様の中には、お子さんの様子に思わず声を掛けなくなったり、目を覆いたくなったりする場面もあったのではないのでしょうか。（かくいう私もその一人です。）

私たち大人は、つい「宿題をどれだけ終えたか」「泳げるようになったか」「計算が速くなったか」など、目に見えて分かる成長に着目しがちです。もちろん、それらは大切な成長の姿です。しかし、子どもたちはこの長い夏休みの中で、それと同じくらい大切な「見えない力」も育てています。

家族や友達との関わりの中で育まれた思いやり、自分で決めたことを続けようとする粘り強さ、新しいことに挑戦する勇気、失敗や我慢を乗り越えるたくましさ、地域や自然とのふれあいの中で得た気付きや感動。こうした力は数値で表したり、目に見える形で評価したりすることが簡単ではありません。しかし、その後の学びや人とのつながりを支える大切な土台となるものです。

子どもたちの成長は、「できるようになったこと」だけで測れるものではありません。だからこそ私たち大人は、子どもたちの言葉や行動に丁寧に目を向け、対話を重ねながら、その小さな変化や成長を見取り、認め、励ましていくことが大切なのだと思います。そして「見える力」と「見えない力」の両輪を大きく育てていくことが、多様化の進むこれからの社会をたくましく生き抜く、グローバルな人材の育成にもつながっていくことと思います。

夏休み中に家庭や地域で経験したことのすべてが、子どもたちの成長の糧となっています。そして、その中で育まれた力は一人ひとり異なります。学校では、子どもたちが夏休みに培ってきた力を大切に受け止め、それぞれのよさや可能性をさらに伸ばしていけるよう努めてまいります。子どもたちが安心して学び、友達とつながり、様々なことに挑戦しながら成長できるよう、教職員一同、力を合わせて取り組んでまいります。

末筆になりますが、今年も厳しい残暑が続きます。皆様方におかれましては、どうぞくれぐれもご自愛ください。